

病害虫情報(第4号)7月予報

令和8年6月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 7月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、イチゴ、抑制トマト、スイカ、カボチャ、メロン】
II 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 12

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- [神奈川県総合防除計画を参考にし、化学農薬のみに依存しない防除に努めましょう。](#)

※ 農薬に関する情報は、令和8年6月26日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 7月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水 稲】

生育:並(生産技術部:はるみ)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ※防除のポイント
いもち病 (葉いもち)	並	△	(予) オリゼメート粒剤 [初発10日前～初発時,14日,2回] 3～4kg/10a (予・治) オリブライト250G [出穂10日前まで,45日,1回] 250g/10a (予・治) コラトップ粒剤5 [初発10日前～初発時,2回] 3～4kg/10a 等 ❖ 発生を認めたら直ちに防除する。山間、谷戸田等常発地では発生に注意する。
ヒメビウンカ (イネ縞葉枯病)	並 (並)	△	アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a トレボン粒剤 [21日,3回] 2～3kg/10a 等
セジロウンカ	並	△	❖ ヒメビウンカは、イネ縞葉枯病を媒介する。
トビイロウンカ	—	△	❖ 5月上中旬植えの水稲では、ヒメビウンカの発生状況に応じて追加防除を行う。
ツマグロヨコバイ	並	△	❖ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を令和8年3月26日に発表している。
イネツトムシ (イチモンジセセリ)	—	○	パダン粒剤4 [30日,6回] 3～4kg/10a スミチオン乳剤 [21日,2回] 1,000倍 等 ❖ イネツトムシ(イチモンジセセリ)に関する防除情報を令和8年6月23日に発表している。
斑点米カメムシ類	—	—	❖ 畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。 ❖ 水田への飛来を防ぐため、出穂10日前頃から周辺除草を控える。
スクミリンゴガイ	—	△	スクミンベイト3 [発生時,一] 2～8kg/10a 等 ❖ 卵塊・貝を見つけた場合は潰して捕殺する。 ❖ 取水口にネットや金網(目合い9mm程度)を設置する。 ❖ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(農業技術センター)

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育: 早(足柄地区事務所根府川分室: 普通温州)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ※防除のポイント
黒点病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤 みかん:[30日,4回] 400～800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600～800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400～800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600～800倍 等 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 ※ 前回散布後250mm以上の降雨があれば、薬剤散布を行う。
かいよう病 (中晩柑類)	やや多	○	(予) コサイド3000 [生育期, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 等 ※ 風傷やミカンハモグリガの食害痕が病原菌の侵入口になる。
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍 等 ※ 隣接する防風垣や茶樹が発生源になりやすい。
ミカンハダニ	並	○	メビウスフロアブル みかん:[7日,2回] 2,000～3,000倍 みかんを除くかんきつ:[14日,2回] 2,000～3,000倍 等 ☞ メビウスは混合剤。総使用回数に注意する。
ミカンサビダニ	—	○	※ ミカンハダニは2葉に1頭程度に増えたら防除する。
ミカンナガタマムシ	—	△	エクシレルSE [前日,3回] 5,000倍 アケセルフロアブル [7日,3回] 1,000～2,000倍 等 ※ 詳細は令和7年4月16日発表の「病害虫情報 号外 第3号」を参照する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ナ シ】 生育: やや早(生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ※防除のポイント
黒星病	並	○	(予) ミギワ20フロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ナリアWDG [前日,3回] 2,000倍 ☞ ナリアは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ストロビードライフフロアブル [前日,3回] 3,000倍 等
シンクイムシ類	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 バリアード顆粒水和剤 [前日,3回]
カメムシ類	並	△	シンクイムシ類: 2,000～4,000倍、カメムシ類: 2,000倍 等 ※ カメムシ類、ナシヒメシンクイの発生状況は、ホームページの最新情報を参考にする。
ハダニ類	並	○	ダニゲッターフロアブル [前日,1回] 2,000倍 ダニコングフロアブル [前日,1回] 2,000倍 等 ※ 梅雨明け後に防除する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【ブドウ(大粒種)】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
べと病	並	○	(予) ランマンフロアブル [14日,3回] 1,000～2,000倍 (予) イデクリーン水和剤 [ー,ー] 800倍 (予) Zボルドー [ー,ー] 500～800倍 + クレフノン [ー,ー] 100倍 等
黒とう病	並	○	(予) イデクリーン水和剤 [ー,ー] 黒とう病:500倍、晩腐病:400～800倍
晩腐病	ー	○	(予・治) オーシャインフロアブル [7日,2回] 黒とう病:2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	やや多	○	ディアナWDG [前日,2回] アザミウマ類:5,000～10,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カキ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
うどんこ病	ー	○	(予・治) ストロビードライフフロアブル [14日,3回] 3,000倍 等
カキノヘタムシガ	ー	○	スミチオン水和剤40 [30日,3回] カキノヘタムシガ:800～1,200倍 カメムシ類:800～1,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 オリオン水和剤40[21日,1回] カキノヘタムシガ:1,000倍 等
カメムシ類	並	△	❖ カキノヘタムシガの平年における防除適期は8月上旬である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【チャ】 生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
輪斑病・ 新梢枯死症	並	○	【夏整枝・浅刈り更新直後】 (予・治) ベルコート水和剤 [7日,2回] 1,000倍 (予・治) カスミンボルドー又はカッパースン水和剤 [14日,2回] 輪斑病:500～1,000倍, 新梢枯死症:1,000倍 等 ☞ カスミンボルドー及びカッパースンは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 輪斑病は摘採や整枝のときにできた傷口から感染するため、薬剤散布のタイミングは摘採や整枝後、早ければ早いほど効果的である。
チャノミドリヒメ ヨコバイ	やや多	○	【夏整枝・浅刈り更新の2週間ほど後】 コルト顆粒水和剤 [7日,2回] 2,000～3,000倍 コテツフロアブル [7日,2回] 2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	やや多	○	
チャトゲコナジラミ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
うどんこ病	—	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) クロスアウトフロアブル水和剤 [前日,2回] 3,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍等 ❖ 多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。										
疫病	—	○	(予・治) ピシロックフロアブル[前日,3回] 1,000倍 (予・治) リドミルゴールドMZ [前日,2回] 1,000倍 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。										
アブラムシ類	やや少	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 ディアナSC [前日,2回]										
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	並	○	コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回]										
タバコ コナジラミ	やや多	○	コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000～2,000倍 ウララDF [前日,3回]										
アザミウマ類	やや多	○	アブラムシ類:2,000～4,000倍 コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍等 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(トマトモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td rowspan="2">アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 栽培終了後の作物が、ウイルス病の感染源とならないよう速やかに片付ける。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													
オオタバコガ	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] 2,500～5,000倍 アクセルフロアブル[前日,3回] 1,000～2,000倍 マッチ乳剤[前日,4回] 2,000～3,000倍等 ❖ 極端に着色の早い果実には、幼虫が食入している可能性があるのでよく確認し捕殺する。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント									
べと病	並	○	(予) ライメイフロアブル[前日,4回] 2,000～4,000倍 (予・治) ベトファイター顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 ☞ ベトファイターは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 ❖ 肥料切れや成り込みによる草勢低下は、発生を助長させる。									
うどんこ病	やや少	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍									
アブラムシ類	並	○	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000～4,000倍 コナジラミ類:2,000倍									
コナジラミ類	やや少	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回]									
オンシツ コナジラミ	やや多	○	アザミウマ類:5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー]									
タバコ コナジラミ		○	アブラムシ類、コナジラミ類:300倍									
アザミウマ類	並	○	❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(キュウリモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>BPYV(キュウリ黄化病)</td></tr><tr><td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr></table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											
ミナミキイロ アザミウマ	並	○										
ミカンキイロ アザミウマ		○										
❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 栽培終了後の作物が、ウイルス病の感染源とならないよう速やかに片付ける。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナ ス】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予・治) アミスターオブティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 ☞ アミスターオブティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍 等
アザミウマ類	並	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 マツチ乳剤 [前日,4回] 2,000倍 等
ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	並	○	
オオタバコガ	やや多	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 アクセルフロアブル [前日,3回] 1,000～2,000倍 マツチ乳剤 [前日,4回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや少	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍
チャノホコリダニ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ネ ギ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
さび病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [14日,3回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予・治) ストロビーフロアブル [7日,3回] 2,000倍 等
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:散布】 モスピラン顆粒水溶剤[7日,3回] アザミウマ類:2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500～5,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍、シロイチモジヨトウ:1,000～1,500倍 等
シロイチモジヨトウ	ー	△	☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【イチゴ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
炭疽病	—	○	【育苗期】 (予) ジマンダイセン水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前),6回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前),6回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期,6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前),5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前,3回] 1,000倍 等 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。 ❖ 発病した株への治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。
うどんこ病	—	○	【育苗期】 (予) サンヨール [前日,6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日,—] 800～1,000倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [収穫開始14日前,3回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前),5回] 1,000倍 等 ❖ 育苗期からの防除が重要である。 ❖ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は残存している。 ❖ 本ぼに発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ❖ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。
ハダニ類	—	○	【育苗期】 コロマイト水和剤 [前日,2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,—] 300～600倍 エコピタ液剤 [前日,—] 100倍 等 ❖ サンクリスタルなどの気門封鎖剤は、ハダニ類が多発している場合、3日程度の間隔で複数回散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ タバコ コナジラミ	やや少 やや多	○ ○	【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1～2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1～2g/株 【育苗期:散布】 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:4,000倍 マッチ乳剤[前日,4回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤[前日,ー] コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ[前日,ー] コナジラミ類:500倍 等										
アザミウマ類	やや多	○	❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(トマトモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td rowspan="2">アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td></tr></table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													
❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。													

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼ 三 浦 半 島 地 区 野 菜 ▼

【スイカ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ◆防除のポイント
つる枯病	やや多	○	(予) アントラコール顆粒水和剤 [前日,4回] つる枯病、炭疽病:400～600倍
炭疽病	並	○	(予・治) ベルコート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) パレード20フロアブル [前日,3回]
うどんこ病	並	○	つる枯病、うどんこ病:2,000～4,000倍 (予・治) ハチハチフロアブル [前日,2回] うどんこ病:1,000倍 等 ❖ つる枯病、炭疽病は降雨による土砂のはねかえりは感染、発病の原因となる。
アブラムシ類	やや多	○	バリアード顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍
アザミウマ類	並	○	チェス顆粒水和剤 [3日,4回] アブラムシ類:5,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ハチハチフロアブル [前日,2回] アブラムシ類:1,000～2,000倍、アザミウマ類:1,000倍 等
ハダニ類	並	○	ダニサラバフロアブル [前日,2回] 1,000倍 ダニオーテフロアブル [前日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カボチャ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予・治) フォリオゴールド [7日,3回] 疫病:1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	並	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 等 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

▼ 三 浦 半 島 地 区 野 菜 ▼

【メロン】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) ベルコート水和剤 [前日,5回] うどんこ病、つる枯病:1,000倍 (予・治) フォリオゴールド [3日,3回]
つる枯病	やや多	○	うどんこ病、つる枯病:800倍、べと病:800～1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パレード20フロアブル [前日,3回]
べと病	—	○	うどんこ病、つる枯病:2,000～4,000倍 等 ❖ つる枯病は、多湿条件で発生しやすい。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 7月の気象予報と病虫害発生予報の根拠

(1) 7月の気象予報(気象庁 6月23日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	40%	50%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	40%	30%	30%

*6月25日発表1か月予報による。

(2) 7月の病虫害発生予報の根拠

作物名	病虫害名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
水稻	いもち病 (葉いもち)	少	並	1) アメダスデータを元に計算した葉いもち病感染好適日の出現は、5月1日から6月25日の期間中、1.0日で平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量ならびに日照時間は平年並の予報。(－)
	ヒメビウンカ (イネ縞葉枯病)	少	並 (並)	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺数は平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平年よりやや低い。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	セジロウンカ	少	並	1) 予察灯への誘殺は見られず、平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺数は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
カンキツ	黒点病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	そうか病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区、慣行防除区ともに発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の黄色粘着板による調査では、誘殺数が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発生は平年並。(±) 2) 巡回調査では、短果枝での発生は平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発生は平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ナシヒメシンクイ	－	並	1) フェロモントラップへの第1世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)、藤沢では平年並(±)、伊勢原では平年よりやや多い(＋)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒とう病	少	並	1) 巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、被害は平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
果樹全般	カメムシ類	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、南足柄で平年並(±)、県予察ほ(根府川)で平年より少ない(－)。 2) 予察灯への誘殺数は、山北、県予察ほ(上吉沢)で平年並(±)、県予察ほ(根府川)で平年より少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
チャ	輪斑病 新梢枯死症	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや多い。(＋) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノミドリヒメヨコバイ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より多い。(＋) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和8年度・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年より少なく(－)、タバココナジラミの発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地 キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや少なく(－)、タバココナジラミの発生が平年より多い(＋)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生は平年並(±)、ミカンキイロアザミウマの発生は平年よりやや少ない(－)。 2) 青色粘着板への誘殺数は、ミナミキイロアザミウマは平年より少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年より多い(＋)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病虫害情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生は平年よりやや多く(＋)、ミカンキイロアザミウマの発生は平年よりやや少ない(－)。 2) 青色粘着板への誘殺数は、ミナミキイロアザミウマは平年より少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年より多い(＋)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ネギ	さび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
抑制トマト	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	－ －	やや少 やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年より少なく(－)、タバココナジラミの発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 露地キュウリの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや少なく(－)、タバココナジラミの発生が平年より多い(＋)。 3) ナスの巡回調査では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミの発生はともに平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	－	やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和8年度・第4号・7月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地野菜全般	ハスモンヨトウ (三浦半島地区)	—	並 (並)	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は上吉沢、三浦ともに平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オオタバコガ (三浦半島地区)	—	やや多 (並)	1) 巡回調査では、露地トマトの発生は平年より多く(+)、ナスの発生は平年よりやや少ない(—)。 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原では平年よりやや多く(+)、三浦では平年並(±)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より少ない(—)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (—): 少発要因

三浦半島地区野菜

病害虫名	(作物名)	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少 少	やや多 やや多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年より多く(+)、メロンでは発生が平年並(±)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
うどんこ病	(スイカ) (メロン) (カボチャ)	少 少 少	並 並 並	1) 巡回調査では、スイカで発生が平年より多く、メロンで発生が平年よりやや多い(+)、カボチャでは平年並(±)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
アブラムシ類	(スイカ)	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は平年より多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
アザミウマ類	(スイカ)	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ハダニ類	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (—): 少発要因